

オープン市場短信 (2006年3月)

2006.3.06

2月のCP市場動向

2月のCPの新規発行額は、前月同様約4兆3千億円となり、期落ち(約4.1兆円)を若干上回った(除く、ABCP・金融機関発行CP)。期越物レートの急上昇から当初の発行予定を見送りとした企業もあったが、そのうちの多くは期越物から3月期日のショートターム物に振替えて発行を行っていたようだ。2月末時点の発行登録企業数は394社で、既発行企業は345社となった。

なお、ABCP・金融機関発行CPを含めた短期社債の2月末発行残高は21兆5,775.19億円(前月比約3,857億円減)と、前月に続いての減少となった。

発行レートは、年明け以降期越物について一方通行の急ピッチな上昇が続いていたが、2月後半には漸く落ち着きが見られるようになった。日銀の量的緩和政策解除見通しを背景に、ディーラー・投資家は引受・運用に消極的な姿勢を崩していないが徐々に目線が定まるようになり、銘柄間格差がはっきりしてくる中で、格付けレベル毎のレート水準が固まりつつある。最上位格付けで、0.06台~0.13%台。a-1格オペ適格で0.15~0.20近辺が出合いレベルとなっている。

銘柄別の発行レート

2月のCP取引発行レートレンジ

単位 %

格付	1ヶ月		2ヵ月		3ヵ月	
格付 a-1+(オペ適格)	0.015	~ 0.023%	0.065	~ 0.120%	0.050	~ 0.070%
格付 a-1(オペ適格)	0.025	~ 0.090%	0.068	~ 0.250%	0.065	~ 0.280%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.006	~ 0.030%	0.039	~ 0.099%	0.030	~ 0.139%
格付 a-1(リース銘柄)	0.025	~ 0.080%	0.074	~ 0.300%	0.085	~ 0.38%
格付 a-2	0.05	~ 0.20%	0.22	~ 0.35%	0.300	~ 0.39%

CP オペ

ABCP買切りオペは今月も2回オファー(8日・22日)され、オファー金額はいずれも1,000億円。前月同様、2回ともディーラー2行が応札したに止まった。

CP現先オペは、2月は月中4回の期日ロールに加え、28日に新規物(3/2スタート)がオファーされた。期内期日のオペが2回実施された後、初の期越えオペとなった2/14オファー分については、市場での発行レート上昇の影響もあって、平均落札レートは0.042%と他のオペに比べるとかなり高い水準となった。期越えオペの2回目以降は、落札レートは低下した。28日の新規オペでは期日が短くなったこともあって、札割れとなり平均落札レートは0.013%となった。

2月末のCPオペ残高

ABCP 買切りオペ 1,441 億円

CP 現先オペ 2兆6,542 億円

(短期社債・保証付短期外債 22,583 億円/資産担保短期債券 3,909 億円)

ABCP

2月末のABCPの発行残高は、約5兆1,332億円と、前月比1,055億円減少した。前年同月比でも約5,113億円の減少。

現先市場

月中現先レートは、0.005～0.01%のレンジでの出会い。

3月のCP市場動向

3月中のCP償還額は約5兆5,300億円と05年9月の約5兆4,400億円を上回り、単月では過去最大の期落ち額となっている(除く金融機関発行CP・ABCP)。決算月とあって、多くの企業が3月末の発行残高圧縮を図っていることや期越物の金利上昇を眺めて、発行体がショートターム物にシフトしていることなどが期落ち大幅増の要因である。期落ちの多くが月末日に集中(約1兆8千億円)しているが、継続発行は少なく3月末残は大きく減少することが予想される。

期越物発行レートについては、これまで比較的低レートで発行可能だった最上位格付け銘柄については上昇圧力がかかってくると思われる。一方、一般銘柄やリース銘柄については、他の金融商品に比べプレミアムが先行していたこともあって、現行水準と大きくは変わらないレートで発行・引受が行なわれるのではないかと。3M物の発行レートは、最上位格銘柄で0.10%近辺～0.10%台後半、a-1格で0.15%～0.20%台前半の水準と予想する。

CP オペ

ABCP 買切りオペは、今月で終了となる見通し。3/1に一回実施され、月後半に最終のオペが実施されることとなろう。現先オペについては、3月に量的緩和政策が解除された場合でも足元レートは0%近辺で止まると見られることから、落札レートが大きく跳ね上がることはないだろうが、ディーラーの応札意欲も相応に強いと思われ、高止まりを予想する。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/Nともに0.003～0.008%、ターム物で0.005～0.01%近辺での出会いを予想。

(松倉)

参考資料

業種別発行残高内訳

業 種	2月末残高	1月末残高	増減
事業法人	54,448	55,455	1,007
その他金融	64,083	64,392	309
金融機関	45,912	47,399	1,487
(銀行等	30,186	31,935	1,749)
(証券	15,726	15,464	262)
ABCP	51,332	52,387	1,055
計	215,775	219,633	3,858

短期社債月末残高 (H15年3月～H18年2月)

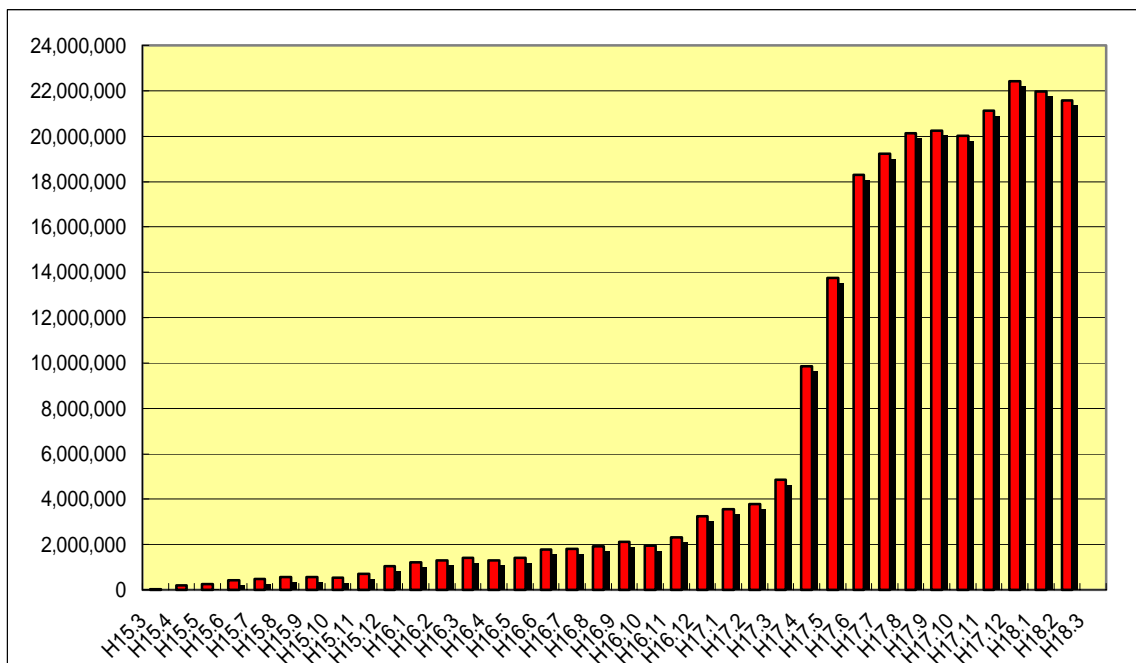
短期社債月末発行残高

2月末

発行残高：21兆5,775.19億円

(単位：百万円)

発行登録企業：394社 (発行実績あり 345社)



2月末発行残高ベスト20

(単位:百万円)

	発行企業名	2月末残高
1	みずほフィナンシャルグループ	20,000.00
2	オリックス	8,749.00
3	フォレスト・コーポレーション	8,653.18
4	エイベックス・ファンディング・コーポレーション	6,170.00
5	ダイヤモンドリース	4,861.00
6	三菱東京UFJ銀行	4,700.00
7	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	4,556.00
8	日産自動車	4,500.00
9	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	4,464.00
10	モルガン・スタンレー証券	4,353.00
11	ミレミアム・アセット・ファンディング・コーポレーション	4,168.40
12	住商リース	3,665.00
13	住友信託銀行	3,392.00
14	野村証券	3,360.00
15	新日本石油	3,130.00
16	東京リース	3,126.00
17	三菱商事	3,000.00
18	UFJセントラルリース	2,975.00
19	三井住友銀リース	2,739.00
20	興銀リース	2,715.00

参考出所 (株)証券保管振替機構